

ふみびと

第250号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

手紙でしか 送れないもの

『繋がり』の形

離れた人とのやり取り。

かつて何日もかけて手紙を送っていたものが、電話ですぐに連絡が取れるようになり、それからメールやSNSなど様々な形のコミュニケーションの手段が生まれました。

りも。

その時代時代を感じさせる懐かしいやり取りは、本間に些細なものであっても、その時は確かに人との繋がりを感じていたもの。形や繋がりが方は全く違うけれど、それでも人と繋がっていることを感じられる。どれだけ時代が流れても人はそんなひとときを求めているような気がします。



だけ増え、あるいは変わっていく中で、それでも一番手間のかかる「手紙」という手段が今も残っていて、しかも今までよりも特別なものになっていくのは不思議なものです。手軽な「繋がり」があるからこそ感じられる書きの温かさ。どちらも人を繋ぐ手段として残っていてほしいものです。

前を向けなくても

いつもと違う日々が続く。多くの人が、思うように過ごせない苛立ちや悲しみを感じているだろう。中にはそんなネガティブな気持ちも封じ込めて暮らしている人もいるかもしれない。苦しいのは自分だけではない、もっと大変な人もいるのだからと。

けたり、楽しみをみつければ、という心がけは素晴らしいことだ。どんな苦しい時にでも希望を持つことができるのは人間の強さだと思ふ。けれども、同時に、無理に前を向く必要はないのだと強く思

う。つらい時にはつらいと認めてしまっても大切だ。そうでないと、つぶれてしまう。もちろん、今は周囲や環境に頼るのも限界がある。それでもまずは自分が自分のつらさを認めてあげる。そして、前を向けなくても、毎日をただ過ごしてただけで十分なのだ、自分を褒めてあげてほしい。

それは「新しい」でも「古い」でもなく、「良い」でも「悪い」でもないもの。「いいね」が届くまでの時間は違うけれど、「いいね」の気持ちが届くところ、はきつと同じものなのだと思えます。これからもきつと変わっていく「繋がり」の形。それが人と人との繋がりが強くなっていくものであってもいいものです。手紙でしか送れない少し特別な思い。そんな特別なひとときも、たまには添えて。

次回発送日

16 次回の発送日は5月16日(土)となります。送りたいお手紙がある場合には、5月14日(木)までに事務局に到着することを確認の上、余裕を持ってポストに投入してください。

今回の発送物について

この度の緊急事態宣言を受け、前回に続き当事務局内のスタッフを縮小したため、今回も会報の新規ご入村者掲示板を新規の方のみ同封させていただきます。申し訳ございません。会報はインターネット上からご覧いただけます。

風船便

いつでも誰でも参加できますが、風船便の受取は新規の方へ優先されます。誰に届くかは風次第...。送り方は簡単。下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務信同の返信筒にそのまま封下し、お交り流す。事務局宛の返信筒にそのまま封下し、お交り流す。

